



すべての人が、幸せになる権利を持っています。
人権について、身近なこと、
小さなことから、始めませんか？

レースアンバサダー

「アンバサダー」は日本語では、“大使”、“使節”という意味になります。つまり、企業や自治体などの組織から任命され、公式に広報、普及活動を行う人のことです。では、レースアンバサダーって誰のことでしょう。実は、レースクイーンのことなのです。2024年の4月に開幕したSUPER GT 第1戦の岡山のレースから、レースクイーンの名称がレースアンバサダーに変更されました。

SUPER GT を運営するGTA(GT アソシエイション)は2024年の3月15日に「レースクイーン」の呼称を「レースアンバサダー」に変更することを発表しました。その理由として、

- ①ファンや観客との交流を通じ、チームスポンサー企業のブランドや製品の認知度向上に寄与
- ②所属チームの応援団として当該チームのPR活動や認知度拡大に貢献
- ③SUPER GTに参戦するエントラントの一員として、SUPER GTシリーズの認知度向上、ファン拡大に寄与
という役割がよりわかりやすくなるようにするためにそうです。

新しく発表された内容では、性に偏りのある表現「クイーン」を含む「レースクイーン」の呼称を変更するものの、従来のレースクイーンの役割、存在意義を変更するものではないと、これまでの活動に敬意を示しています。その上で、「日本のモータースポーツ業界におけるひとつの文化として、むしろそれらを継続しつつ、各々の個性や才能を発揮しやすい環境づくりを目的とするもの」と規定しました。

背景には、2018年アメリカの巨大メディアグループ「リバティメディア」がF1グループの株式を大量に買い取り「女性に過度な露出をさせ、性的な対象としてビジネスに用いているグリッドガール(レースクイーン)は、我々の慣習に合致しておらず、現代の社会規範に共鳴しない」という声明を出して廃止したことが影響しています。性差別に関するマナーは欧米は当然のごとく、ヨーラシア、アジアでも非常に厳しくみられる傾向が21世紀に入り、急激に強まっており、グリッドガールはその批判の先頭に立たされてきたこともあって2018年1月31日、フォーミュラ1は「現代の社会規範にそぐわない」として、2018年シーズンからの廃止を決めたのです。

そして、2024年4月に岡山国際サーキットで行われたSUPER GT の第1戦に初の男性の「レースアンバサダー」が登場しました。彼の名はパク・ミンジュンさん。身長が185cmで韓国はソウル出身のモデルです。チームのロゴがついたブルーのジャケットとホワイトのパンツをスラリと着こなし、「“ジュン”と呼んでください。ファンの皆さんを笑顔にできるようにしたいですし、カッコイイ姿をみせていきたいです。」と爽やかな笑顔を見せしていました。

これまで女性しかいなかった世界での仕事は、ジュンさんにとっても挑戦となるでしょう。男性で、そして外国人としてSUPER GT の世界に登場するジュンさんのチャレンジは、まさに多様性の時代の表現といえると思います。